

## 第5回 打保・蟹寺発電所河川維持流量検討会 会議録

○開催日：令和8年2月13日（金） 14：00～14：55

○会場：飛騨市 宮川振興事務所 2階会議室

○参加者：構成員 21名 清流みやがわをとりもどす会 8名、宮川下流漁業協同組合 3名、  
高原漁業協同組合 4名、富山漁業協同組合 2名、  
飛騨種蔵新そばまつり実行委員会 1名 飛騨市 2名、  
有識者 1名、

オブザーバー他、12名 国土交通省富山河川国道事務所 3名（Web）、  
岐阜県古川土木事務所 1名、  
関西電力㈱ 4名、事務局 4名

合計 33名

1. 開会の言葉 飛騨市宮川振興事務所 清水所長心得
2. あいさつ 飛騨市基盤整備部 横山部長
3. 維持流量の検討について（司会・座長 富山県立大学：高橋先生）

### （1）令和7年の刺し網期間中の河川環境調査結果について ■宮川下流漁協

打保ダムから河川維持流量を放流している6月と維持流量抑制期間中の10月に河川環境調査を実施した。当調査は、令和6年～令和10年度の5か年度に行い令和7年で2回目となる。

#### ■放流量調査

維持流量抑制日数	73日間	抑制期間	R7.8.20 ~ R7.10.31
		打保ダム	蟹寺堰堤
維持流量のみの放流日数		52日間	0日間
日平均放流量		9.0m <sup>3</sup> /S	13.5m <sup>3</sup> /S

- ・令和6年調査と同様、打保区間・蟹寺区間において宮川の水量は、年間を通じて維持流量以上に保たれていた。

#### ■水質調査（実施日：6月4日、10月1日）

- ・令和6年調査と比較し、大きな差異はなかった。
- ・令和6年調査と同様、各調査地点における水質はおおむね環境省が示す生活環境の保全に関する環境基準のA累計および水産1級を満たす水質であった。
- ・令和6年調査と同様、pHが高いが魚類に影響はない。

#### ■水面水深計測調査（実施日：6月6日、10月1日）

- ・動植物の生息又は生育地の状況へ与える影響

「正常流量検討の手引き」記載の「魚種別の必要水利条件の参考例」を参照。

令和6年調査と同様、ほぼ全調査地点における流速、水深の平均値は各魚種に必要な水利条件を満たしている。流速においては、「調査地点打保②における6月の流速」の実測値が2倍

以上の差がみられたが、令和7年の平均水深が前年より25%以上浅くなったことが原因と考えられる。

・ 景観、観光へ与える影響

令和6年調査と同様、水量感の指標であるW/Bについては、全調査地点において0.2を満たしておりおおむね満足すると考えられる。

■ 魚類調査（実施日：6月6日、10月1日）

- ・ 令和6年調査と同様、全調査地点においてウグイの捕獲数が多い結果となった。
- ・ ウグイの資源動向については、「打保①地点の10月の調査におけるサイズ」に有意な差がみられたが、その他の調査時期、調査時点では差がみられなかった。
- ・ その他の魚種においても調査地点・調査区間ごと出現種類、捕獲数に極端な差はみられなかった。
- ・ 資源量の動向の評価については、5年間の調査結果の比較をもつて行う。

■ 漁獲量調査

- ・ アユ資源の動向の指標としてアユ漁獲量及び漁業者の動向を用いる。

漁業従事者：200人、遊漁者数：7,034人、アユの漁獲量：11千匹

- ・ 資源量の動向の評価については、5年間の調査結果の比較をもつて行う。

（2）令和7年の宮川の鮎による地域コミュニティについて

■ 宮川振興事務所

- ・ 飛騨市のふるさと納税返礼品、ネット販売等により約2,000匹の出荷があった。
- ・ 飛騨まんが王国の鮎料理提供施設「ヤナの家」が休業し、「川の家」でのみの営業となったため、販売数量が令和6年比32%の減少となった。
- ・ 漁協の利用事業の取扱匹数が減少となった。

（3）今後の検討会について

■ 宮川振興事務所

（決定事項）今後も毎年この時期に検討会を開催する。

ま と め

令和10年度まで調査を行い、結果をまとまる。